

試験研究活動情勢報告（平成 31 年 4 月分）

【果樹試験場】

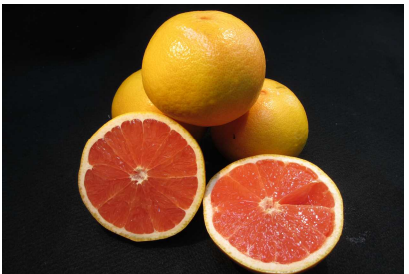
ニホンナシの交雑育種



受粉後袋かけをした花

本県特産の「新高」は温暖化による夏期の高温や冬期の低温不足により、生理障害や開花・発芽不良を起こすことがあります。そこで、当场では温暖化に対応でき、高品質安定生産が可能な品種を目指し、ナシの育種を行っています。今年度は、「新高」に生理障害の少ないであろう品種（「南水」、「甘太」）の花粉を人工受粉し、ほかの花粉の付着を防ぐため袋かけをしました。今回交雑した果実は 10 月に収穫し、1 ヶ月低温に遭遇させた後に採種して育成、最短で令和 3 年度に初結実するように取り組んでいます。

少加温施設グレープフルーツの栽培に関する研究



収穫前の状況と収穫した果実

少加温施設グレープフルーツの収穫適期を明らかにするため、経時的に果実調査を実施しました。12 月頃には果皮が完全着色しましたが、クエン酸含量が高く、食べるには酸っぱすぎました。冬場はクエン酸の低下があまり進みませんでした。4 月になり開花が始まると、クエン酸含量の低下が進み、ちょうどよい食味になりました。このことから、収穫適期は開花が始まってきた頃（4 月中旬）と考えられました。なお、この頃には後期落果も増え、収穫適期のサインと考えられました。